〔著 訳 者 紹 介〕

（掲載順）

関根　清三　せきね・せいぞう

聖学院大学総合研究所副所長。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科特任教授。東京大学大学院人文社会系研究科倫理学専攻博士課程修了。東京大学より博士（文学），ミュンヘン大学よりTh.D.。東京大学大学院人文社会系研究科教授を経て，現在，同名誉教授。〔**著訳書**〕*Die Tritojesajanische Sammlung (Jes 56–66) redaktionsgeschichtlich untersucht*, BZAW 175（de Gruyter, 1989），『旧約における超越と象徴――解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会，1994年），『イザヤ書』（旧約聖書7，岩波書店，1997年），『旧約聖書の思想――24の断章』（岩波書店，1998年〔改訂版，講談社，2005年〕），*Transcendency and Symbols in the Old Testament: A Genealogy of the Hermeneutical Experiences*, BZAW275（de Gruyter, 1999），『倫理思想の源流――ギリシアとヘブライの場合』（放送大学教育振興会，2001年〔改訂版，2005年〕），『倫理の探索――聖書からのアプローチ』（中央公論新社，2002年），『エレミヤ書』（旧約聖書8，岩波書店，2002年），*A Comparative Study of the Origins of Ethical Thought: Hellenism and Hebraism*（Rowman & Littlefield Publishers, 2005），『旧約聖書と哲学――現代の問いのなかの一神教』（岩波書店，2008年），『ギリシア・ヘブライの倫理思想』（東京大学出版会，2011年），『アブラハムのイサク献供物語――アケダー・アンソロジー』（編著，日本キリスト教団出版局，2012年），*Philosophical Interpretations of the Old Testament*, BZAW 458（de Gruyter, 2014），『内村鑑三――その聖書読解と危機の時代』（筑摩書房，2019年）ほか。

髙橋　義文　たかはし・よしぶみ

アンドリューズ大学大学院修士課程修了，東京神学大学大学院博士課程修了。神学博士（東京神学大学）。三育学院短期大学教授・学長，エモリー大学客員研究員，聖学院大学大学院教授，聖学院大学総合研究所所長・副所長を歴任。現在，聖学院大学総合研究所名誉教授。
〔**著訳書**〕『キリスト教を理解する』，『ラインホールド・ニーバーの歴史神学』，『ニーバーとリベラリズム』，『パウル・ティリッヒ研究』（共著），『教育の神学』（共著），チャールズ・C・ブラウン『ニーバーとその時代』，ジョン・ウィッテ『自由と家族の法的基礎』（共監・共訳），ラインホールド・ニーバー『ソーシャルワークを支える宗教の視点』（共訳），ラインホールド・ニーバー『人間の運命――キリスト教的歴史解釈』・『人間の本性――キリスト教的人間解釈』（共訳）ほか。

五十嵐 成見　いからし・なるみ

青山学院大学文学部卒。東京神学大学神学部および東京神学大学大学院神学部修士課程修了（組織神学）。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士課程 修了。博士（学術）。現在，聖学院大学心理福祉学部兼人間福祉学部助教，および同学部チャプレン。
〔**著訳書**〕『いつも喜びをもって』（共著，教文館，2018年）。スタンリー・ハワーワス，ジャン・バニエ『暴力の世界で柔和に生きる』（共訳，日本キリスト教団出版局，2018年）
〔**論文**〕「知的自伝（Intellectual Autobiography）から見るニーバー神学の特質」（『聖学院大学総合研究所紀要』No.64，2018年），「北欧国家の福祉とキリスト教――フィンランドを事例に」（『聖学院大学論叢』第31巻第2号，2019年），「『説教者』としてのラインホールド・ニーバー――その説教理解の考察」（『説教塾紀要』第20号，2019年）ほか。

菊 地　順　きくち・じゅん

東北大学文学部卒業，同大学院文学研究科博士課程後期中退，東京神学大学大学院（修士）修了，米国エモリー大学大学院（Th.M.）修了。博士（学術，聖学院大学）。 1992年，聖学院大学人文学部宗教主任，専任講師に就任。現在，政治経済学部チャプレン，同教授，聖学院キリスト教センター所長。
〔**著書**〕『ティリッヒと逆説的合一の系譜』（聖学院大学出版会），『永遠の言葉――キリスト教概論』（編著，同），『信仰から信仰へ』（日本伝道出版），『とこしなえのもの』（同）。
〔**論文**〕「M. L. キングの神人共働論」『聖学院大学総合研究所紀要』59号，2015年，「M. L. キングの人間論」『同』60号，2015年，「M. L. キングとR. B. グレッグ」『同』64号，2017年，「M. L. キングと時代精神――聖霊論をめぐって」『同』65号，2018年ほか。

谷口 隆一郎　たにぐち・りゅういちろう

聖学院大学総合研究所教授。アムステルダム自由大学哲学大学院博士課程卒業（1998年）。Ph.D.（哲学博士）。キリスト教学研究所大学院（Institute For Christian Studies）哲学修士課程（M.Phil.F.）単取得退学（1989年）。ウェスト・ヴァージニア大学経済学大学院修士課程卒業（West Virginia University, M.A., 1987年）。キリスト教学研究所大学院研究助手，一般財団法人昭和経済研究所研究員，聖学院大学総合研究所助教授，聖学院大学政治経済学部准教授・教授を経て，現職。専門領域は，哲学・倫理学・政治哲学・公共哲学の隣接領域。
〔**著書**〕*Liberalism and Its Metaphysical Difference: A Critique of the Ground of F. A. von Hayek's Political Philosophy* (VU University Press, 1997)，『横超の倫理――ローティ，ハイエク，シンガーを越えて』（春風社，2014年），編著に『コミュニティ政策研究の課題』（三恵社，2010年）など。

松本 のぞみ　まつもと・のぞみ

東京神学大学大学院神学研究科博士前期課程修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程修了。現在，日本基督教団中京教会牧師，聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程在籍。
〔**論文**〕「植村環の贖罪思想が目指すキリスト者アソシエーション――敗戦の経験からの再考」『聖学院大学総合研究所紀要』№65，2019年，193–221頁。

星山 玲於奈　ほしやま・れおな

2014年3月聖学院大学人文学部欧米文化学科卒業，2015年4月聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程入学。2017年3月聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化研究科博士前期課程修了。2017年4月聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程入学。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程在籍。

ゲルハルト・ヴェグナー　Gerhard Wegner

Evangelische Kirche in Deutschland社会科学研究（EKD-SI）名誉所長，元マールブルク大学教授。専門は実践神学。ゲッティンゲン大学およびナイロビ大学で神学を学び牧師活動を展開後，ハノーファーのプロテスタント組織Hanns-Lilje-Stiftung創立幹部，ドイツ万博（2000年）におけるキリスト教行事のプロテスタント側責任者を歴任。
〔**著書・論文**〕宗教改革500年を機に企画した編著書として，『宗教改革のグローバルな影響』，『労働から市民社会へ――宗教改革の作用史』，『ルター2017』，『宗教と教会の社会的射程――神学と社会学』など。邦語で読める近著論文として「宗教的コミュニケーションの社会的重要性」「ルターの自由理解は文化の壁を超えられるか」『世界社会における宗教的コミュニケーションの可能性――共鳴の醸成』（聖学院大学出版会，2020年）所収。

小松﨑 利明　こまつざき・としあき

国際基督教大学大学院博士後期課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員（DC2），国際基督教大学社会科学研究所助手，聖学院大学政治経済学部助教などを経て，現在，天理大学国際学部外国語学科准教授。
〔**論文**〕“Peace, Justice and Reconciliation through the Protection of Human Rights: A Preliminary Note”（『聖学院大学総合研究所紀要』第47号，2010年），「国際社会における方の支配と和解」

（松尾秀哉／臼井陽一郎編『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版，2013年），「アメリカの譲歩とEUの妥協――国際刑事裁判所（ICC）とEUの規範政治」（臼井陽一郎編『EUの規範政治』ナカニシヤ出版，2015年），「国際法からみた地域の分離独立」（松尾秀哉ほか編『連邦制の逆説？――効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版，2016年）など。
〔**翻訳**〕フィリップ・ウエスト「戦争の悲哀――その地図作成に向けて」（村上陽一郎／千葉眞編『平和と和解のグランドデザイン』風行社，2009年），リチャード・フォーク「平和のグランドセオリーの地平」（同），トーマス・J・ショーエンバウム「日本と近隣諸国との領土および海洋をめぐる紛争の解決に向けて――問題と機会」（ヴィルヘルム・フォッセ／下川雅嗣編『「平和・安全・共生」の理論と政策提言に向けて』風行社，2010年）。

小林　茂之　こばやし・しげゆき

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程博士論文提出資格取得，単位取得満期退学。2003年より聖学院大学人文学部助教授（准教授），2016年4月より同教授。2012～13年度ケンブリッジ大学クレアホールコレッジ客員研究員として英国ケンブリッジに滞在。2013年より同コレッジ終身メンバー。英語歴史言語学，通時統語論，比較統語論専攻。主な研究テーマは，古英語・中英語における言語変化。英訳聖書および初期英語キリスト教文献へのラテン語・ギリシア語からの影響を中心に，文献学・歴史学との学際的研究も進めている。

村岡　有香　むらおか・ゆか

Ball State University大学院 M.A. in TESOL（修士），Teachers College, Columbia University大学院（応用言語学）Ed.M.（教育修士），国際基督教大学大学院教育学研究科博士後期課程（英語教育法）Ph.D.（教育学博士）修了。聖書学園千葉英和高等学校教諭，恵泉女学園大学准教授を経て，聖学院大学人文学部欧米文化学科准教授。
〔**著書**〕『外国語活動で使える！読み聞かせ絵本＆活動アイデア』（共著，成功する小学校英語シリーズ，明治図書出版，2014）
〔**論文**〕“Shadowing and Fluency: How does Shadowing Practice Promote Fluency in the EFL Classroom?”（Keisen University Bulletin 29, 2017）など。